

第50回えいが部「2001年宇宙の旅」(1968年)

400万年前の人類創世記、謎の黒石板“モノリス”に接触したことで猿人はヒトへと劇的な進化を遂げ、宇宙開発をするまでに発達した。そして2001年、“モノリス”の謎を究明するため初の有人木星探査へと旅立つ。

しかし、宇宙船を制御するAI(人工知能)の「HAL 9000」が突如反乱を起こす。死闘の末、生き残ったポーマン船長は“モノリス”に遭遇し、人間の知識を超越した領域へと到達する…。

スタンリー・キューブリックがSF作家アーサー・C・クラークとタッグを組んで製作にあたった究極の宇宙SF。あまりにも抽象的で難解であることから、公開当初は多くの批判を浴びた。現在では再評価を受け、SFのオールタイム・ベストとしてのみならず、映画史全体としてのオールタイム・ベストとして名高い。

監督：スタンリー・キューブリック

- ・1951 空飛ぶ牧師 Flying Padre 短編ドキュメンタリー
- ・1952 恐怖と欲望 Fear and Desire 長編劇映画デビュー作
- ・1955 非情の罠 Killer's Kiss
- ・1956 現金に体を張れ The Killing
- ・1957 突撃 Paths of Glory
- ・1960 スパルタカス Spartacus
- ・1962 ロリータ Lolita
- ・1964 博士の異常な愛情 または私は如何にして心配するのを止めて水爆を愛するようになったか
Dr. Strangelove or: How I Learned to Stop Worrying and Love the Bomb
- ・1968 2001年宇宙の旅 2001:A Space Odyssey
- ・1971 時計じかけのオレンジ A Clockwork Orange
- ・1975 バリー・リンドン Barry Lyndon
- ・1980 シャイニング The Shining
- ・1987 フルメタル・ジャケット Full Metal Jacket
- ・1999 アイズ ワイド シャット Eyes Wide Shut

脚本：アーサー・C・クラーク

- ・『2001年宇宙の旅』 2001: A Space Odyssey (1968年) ISBN 4150102430 ISBN 415011000X (改訳決定版)
- ・『2010年宇宙の旅』 2010: Odyssey Two (1982年) ISBN 4152020555 ISBN 4150110522・獅子王たちの夏(1991) 脚本

出演 デヴィッド・ボーマン船長(キア・デュリア)

- ・1984 2010年 2010 デビッド・ボーマン
- ・2003 アライバル ファイナル・コンタクト Alien Hunter バイヤー
- ・2006 グッド・シェパード The Good Shepherd ジョン・ラッセル上院議員
- ・2017 華氏 451 Fahrenheit 451 テレビ映画

フランク・プール(ゲイリー・ロックウッド)

- ・ワーロック Warlock (1959) クレジットなし
- ・草原の輝き Splendor in the Grass (1961)
- ・ザ・スケアクロウ Night of the Scarecrow (1995)

ヘイウッド・R・フロイド博士(ウィリアム・シルベスター)

- ・1949 コンクリートの中の男 Give Us This Day ジョヴァンニ
- ・1967 007 は二度死ぬ You Only Live Twice ペンタゴンの役人
- ・1974 破壊! Busting ウェルドマン
- ・1975 ヒンデンブルグ The Hindenburg
- ・1978 天国から来たチャンピオン Heaven Can Wait レポーター

「わたしは、小さなプロダクションで映画を作っている一製作者であります」と、手紙は謙虚に始まった。「あなたの作られた『アストロ・ボーイ (※鉄腕アトム of 英題名)』を見て、NBC にあなたの住所を訊いてお便りするのですが、実は、こんど、わたしは、純粋な SF 映画をひとつ作ろうと思っています。それは二十一世紀の月世界を舞台にしたもので、科学的根拠に基づいた、シリアスで、真面目なドラマであります。ついては、あなたにその映画の美術デザインのご協力を求めたいので、次のわたしのお訊ねにご返事いただければ幸いです。一、あなたは英語ができるのか？二、一年ほどの間、あなたが家族とはなれ、ロンドンのわれわれのスタッフといっしょに生活してもらえるか？以上、なるべく早くご返事を賜れば幸甚」

といういねいな文面で、キューブリックは、「手塚治虫に 2001 年宇宙の旅」の美術監督を手紙で依頼した。だが、手塚は「鉄腕アトム」は製作を進行し、虫プロダクションを一年も留守にすることは、到底できないので、「非常によいお話に興味を持ったが、食わせなければならぬ人間が二百六十名もいるので、一年も家をあけるわけにはいきません。」という断りの手紙を出した。

すると二週間ほどたってから、

「あなたに、家族が二百六十人もおられるということは知らなかった。二百六十人も家族では、生活もさぞかしたいへんでしょう。諦めましょう」

…手塚治虫自叙伝『ぼくはマンガ家』より抜粋